

(別紙2-1)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月20日

【評価実施概要】

事業所番号	4271401277		
法人名	有限会社 あっぷる		
事業所名	グループホームありあけ		
所在地	長崎県島原市有明町大三東丙470番地1 (電 話) 0957-68-0706		
評価機関名	特定非営利活動法人 医療・福祉ネットワークせいわ		
所在地	佐賀県佐賀市木原二丁目6番5号		
訪問調査日	2007年12月19日	評価確定日	2008年3月3日

【情報提供票より】(2007年 11月 30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 <u>平成</u> 14年 1月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 3人, 非常勤 8人, 常勤換算	6.3人

(2) 建物概要

建物構造	木 造り		
	2 階建ての	1 ～ 1	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000～16,000 円	その他の経費(月額)	12,000+実費 円
敷 金	有 (円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要 (11月 30日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名
要介護3	2 名	要介護4	- 名
要介護5	3 名	要支援2	- 名
年齢	平均 82.1 歳	最低 58 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	くすのきクリニック	喜多内科医院	松井歯科医院
---------	-----------	--------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、島原鉄道大三東駅の近隣の住宅地に位置し、2階建ての1階部分に1つのユニットが設けられています。敷地内にはデイサービスと宅老所が建てられており、同一法人で運営されています。診療所を改築された居室は、部屋の広さ、間取りが個々に異なり、家賃も面積や日当たりなどを勘案して設定されています。ホーム内は清掃が徹底されており、清潔感が感じられます。理念にある「笑顔」という言葉を大切にされており、ご利用者およびスタッフが共に笑顔で生活できるホームを目指した取り組みが行われています。経営者や管理者を含めたスタッフ間のコミュニケーションは良好で、馴染みのスタッフの中でご利用者は安心して生活を送られています。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 改善に向けて取り組まれています、計画性が十分ではありません。 評価結果に基づく改善活動は見受けられますが、改善計画は確認できません。今後は、評価結果に基づく改善課題を明確にしたうえでの優先順位やスケジュールを定めた活動を期待します。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価の意義のスタッフへの浸透が求められます。 今回の自己評価は、経営者・管理者を含む特定のスタッフにより実施されています。自己評価に全スタッフで取り組むことによる課題の真の共有化が求められます。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 積極的な意見交換に努力されています。 運営推進会議が開催され、積極的な意見交換に努められています。今後も継続的に取り組むことにより、さらなるサービスの質の向上に向けた有意義な意見交換になることを期待します。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 意見や苦情の聴取および検討の仕組みを充実させる必要があります。 ご家族からの苦情を運営に反映させた実績はありますが、その仕組みは、十分な状況とは言えません。ご意見や苦情等は、洩れなく検討されるよう書式の整備が求められます。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 積極的な活動が見受けられ、今後の取り組みに期待できます。 自治会に加入され、地域の敬老会や清掃活動、お祭りへのかかわりが見受けられます。また、スタッフによる地域のゴミ置き場の清掃活動など、地域とのかかわりを大切に考えられた取り組みが行われています。今後も、より積極的に地域と協働していこうとされる姿勢がうかがえます。

(別紙2-2)

2. 評価結果 (詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ご利用者及びスタッフが共に笑顔で過ごせるホームを目指されており、スタッフと共に作成されたホーム独自の理念を掲げて、実践に向けた取り組みを展開されています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は掲示され、日々の活動の中で常に意識されており、新規採用者には、業務内での指導が行われています。また、スタッフにも十分浸透していることが、ヒアリングやご利用者への接し方から確認できます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入されており、敬老会などにも参加されています。風除祭（地域のお祭り）では、ホームを訪問して頂くよう働きかけられ実現されています。年2回程度の地域の清掃活動やスタッフによる地域のゴミ置き場の清掃など地域の方々とも協働されています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果を活かし、情報共有のため職員連絡ノートへの確認サインの徹底など改善活動が見受けられますが、計画的な改善には至っていません。自己評価についても一部のスタッフで実施されている状況です。	○	改善については、課題を明確にした上で優先順位を定めて取り組むなど、計画的な取り組みが必要です。また、自己評価を事業所全体で取り組まれることによる課題等の真の共有化が求められます。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヵ月に1回実施されており、積極的な意見交換に努められています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村とのかかわりは、ご利用者の個別の事例について相談するなど、サービスの向上のために協働されています。また、福祉事務所の相談窓口も活用されています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご利用者の状況は、お知らせ文書や写真、受診報告書などにより報告されており、面会時には、介護日誌やヒヤリハット報告書などによる説明が行われています。金銭面は全て立て替え払いにされています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や家族会の開催などはありませんが、「各種手続は最後までかわることとする」など、苦情に基づく改善事例は聴取できました。しかし、苦情を改善に結びつけるための様式などは確認できません。	○	ご家族の意見を聴取し検討する仕組みが必要です。苦情を改善につなげるための記録様式を整備されることが求められます。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	スタッフ間の人間関係の構築を重視されており、スタッフの提案による勤務体制の改善事例なども見受けられ、スタッフの異動の抑制に努められていることがうかがえます。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を受講した際には、研修報告書が作成され会議内で伝達されるなど共有する仕組みはありますが、徹底されている状況ではありません。また、研修計画も作成されていません。	○	研修内容の共有化のためには、研修受講後の報告書の作成とその回覧および伝達の徹底が求められます。また、スタッフ育成の面から、スタッフ一人ひとりの研修履歴等を把握した上での教育計画作成についてご検討下さい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島原半島ケア研究会に参加し、同業者との意見交換などが行われていますが、参加されるのは経営者やホーム長であり、一般のスタッフによる交流には至っていません。他の事業所との相互訪問なども行われていません。	○	現在、検討されているホーム相互訪問など実現に向けた積極的な取り組みを期待します。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にはご本人やご家族の状況に応じて訪問し、見学も実施されています。入居直後は家族との連絡を密にし、馴染まれるまで相談しながら対応されています。	○	馴染みながらのサービス利用への取り組みは見受けられますが、見学等入居前の記録が残っていないのは残念です。見学の受入時など入居前の情報の記録は、入居後の支援に対する有効な情報と捉え、活用できるよう整備されることが必要です。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	漬物の漬け方や、地域の風習など、昔ながらの知恵を活かしたアドバイスを頂くことは多々あるとのこと。また、スタッフはご利用者を人生の先輩として接するように努められており、ご利用者の笑顔が何より嬉しいとスタッフは感じてあります。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声をかけ、しぐさ等も重要な要素と捉えて意向の把握に努められており、スタッフの気付きなどについては、記録され共有が図られています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	日々の関わりの中で聴取したご利用者やご家族からの情報、スタッフの気付きなどについては、記録され会議で検討されたうえで、介護計画が策定されています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	原則として3ヵ月に一回、介護計画についての評価、見直しが行われています。随時の見直しについては、ご利用者の状態が落ち着かれているので生じていないとのことです。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご利用者やご家族の状況に応じて、通院介助や外部の美容室の利用、一時帰宅など柔軟な支援が行われています。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご利用者等の希望により選定され、検査結果などはファイルに保管されています。また、状態変化時の往診なども行われています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期については、ご利用者の状態変化の際などにご家族と協議されています。	○	入居の際など早い段階でご利用者やご家族の意向を確認し記録に残す必要があります。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉遣いや対応などご利用者のプライドに対する配慮は見受けられます。しかし、個人情報保護法への対応は十分な状況とは言えません。	○	個人情報保護についての規程の整備など、早期対応が求められます。また、個人情報保護法についてスタッフ全員の理解を深めるための取り組みを推奨します。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはありますが、声かけを積極的に行いご利用者の意向を踏まえた対応を心掛けてあります。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や下善など、ご利用者と協働され、トロミなどの食事形態にも配慮されています。食事はご利用者とスタッフが同じものを同じテーブルで食べられています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴については、2日に1回と設定されていますが、希望に応じてシャワー浴等を含め柔軟に対応されています。ご利用者毎の具体的な入浴支援方法の記載は確認できません。	○	入浴支援に関する注意事項などを手順書にまとめ新しいスタッフにも周知できるようにご検討下さい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	裁縫や洗濯物たたみ、食器洗いなど、ご利用者の生活に密接なことを協働し、字を書くことや歌（民謡）を歌うことなど、過去の生活歴に応じた楽しみごとや気晴らしの支援が行われています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご利用者の状態や季節的な配慮のもと、隣接地の花畑などに、ご利用者と出かけられています。車椅子による外出もあります。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠されることなく、ご利用者の外出は、見守りにより対応されています。安全面から玄関にはセンサーが使用されていますが、その音量には配慮されています。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	火災訓練が実施されており、緊急時の連絡先一覧表も整備されています。しかし、食料品や水の備蓄および災害時の必要品などの準備はまだ十分とは言えない状況です。	○	飲料水の備蓄や必要品の準備など様々な災害を想定した対策が必要です。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量など必要に応じた個別対応が行われています。食事の量や形態についての個別対応も見受けられます。献立は栄養士により作成されています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには、花やご利用者の作品などが飾られており季節感にも配慮されています。また、ご利用者の活動意欲につながるようお手玉なども置かれています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込み品には、特に制限を設けられておらず、ご家族と相談され馴染みのものを持ってきて頂くよう働きかけも行われています。居室には椅子やダンスなどの家具、ラジオなどが持ち込まれています。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票を添付すること。